

令和元年6月9日

## 平成30年度学校関係者評価委員会報告

学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校  
自己評価委員会・学校関係者評価委員会

学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校関係者評価委員会は、自己評価委員会が作成した平成30年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価委員会を実施しました。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 勝浦 政夫 (大阪鍼灸マッサージ協同組合 理事長、全国柔整鍼灸協同組合 保険局局長)
- ② 松本 尚純 (貞友会[同窓会] 副会長)  
(事務局)
  - 北野 吉廣 (平成医療学園専門学校 校長)
  - 中谷 裕之 (平成医療学園専門学校 統括長)
  - 高木 保子 (平成医療学園専門学校 統括長補佐)
  - 竹本 晋史 (平成医療学園専門学校 教務部長代理・柔道整復師科学科長)
  - 齊藤 真吾 (平成医療学園専門学校 鍼灸師科学科長)
  - 内野 容子 (平成医療学園専門学校 東洋療法教員養成学科学科長)
  - 栗本 久美 (平成医療学園専門学校 日本語学科学科長)
  - 田中奈津子 (平成医療学園専門学校 事務次長)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日：令和元年6月9日(日)

開催場所：平成医療学園専門学校 第二校舎

#### 3 学校関係者評価委員会

別紙のとおり

以上

**I 重点目標について**

《平成 30 年度重点目標》

- 国家試験の合格率向上のための施策（国試対策の見直し、低学力者への対応）
- 社会情勢や職域の変化への適応（介護・福祉・美容分野に関する教育）
- 学生確保（増加）のための活動（学校の魅力 UP、離脱者防止）
- 高等教育の修学支援新制度への対応
- 学習環境の整備（校舎修繕計画等）

このように、平成 30 年度以降、本校を取り巻く（内部・外部）環境は大きく変化している。カリキュラムの改正に対して、柔道整復師科・鍼灸師科は土曜日授業を実施している。

日本語学科に関しては、学生数が安定的に増えており、増員申請を行い今後も増える留学生のニーズに合った教育の実践を目標としている。

応用日本語学科の新設に向けて校舎修繕を行い、学習環境を整えた。

**II 各評価項目について**

項 目	評 価
基準 1 教育理念・目的 ・育成人間像	令和元年度に申請する「高等教育の修学支援新制度」に対応すべく 3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を作り直した。「平成の医療人」として医療現場や施術所経営の実務で求められている実践的な知識・技能をもった次世代の人材育成に努め、医療人としての倫理観を持てるよう教育を行っている。
基準 2 学校運営	<p>学校運営については、これまでと同様「事業計画書」を作成し、理事会、評議員会の承認を得て運営している。学校運営組織としては、今回開催している学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を設置し、外部委員からの意見聴取を行ったうえで学校運営や教育内容について検討しているほか、学内では運営者会議及び教務会、学科教員で構成される教員会議を適宜開催し、問題の共有及び解決を行っている。</p> <p>学内での情報共有はグループウェアを活用し、「学生管理システム」の導入により各学生の個人情報及び学費納入状況をシステム内集約できるため、教職員が統一したデータを基に学生対応できる体制を整えた。</p> <p>そのほか、これまで法人本部で使用していた「経理システム」を平成 30 年度から各校で新たに導入しており、予算執行状況が都度、各学校単位で確認できるようになっている。学科単位、予算科目単位等、状況によって必要な数字が抽出できることにより、予算執行状況に対する意識の改革ができた。</p>

項 目	評 価
<p>基準3 教育活動</p>	<p>柔道整復師科では、平成30年度から導入授業（実技系）を取り入れた。これにより授業内評価が課題とはなったが学生の意欲が高まったと言える。毎年7月に実施している堺サッカー実習により、現場力を高めている。3年生については自主性を持たせることを目標とし、教育を行った。全体的に学力の低い学生が目立ち、国家試験受験に対してエンジンがかかるのが遅く、国家試験の合格率は低いものとなった。</p> <p>鍼灸師科においては、柔道整復師かと同様導入授業の授業内評価が課題となっているが、1年次からの附属治療所での実習は学修成果が出ている。3年生の卒業試験については、原級留置は11名となった。原級留置が多いのが今後の課題と考える。</p> <p>東洋療法教員養成学科においては、平成30年度においては入学生がいなかった。引き続き学生募集を行い、教育内容の充実を図っていきたい。</p> <p>日本語学科では専門学校は日本語能力試験N3、大学はN2が入学基準となってきたので、在学中の取得を推奨している。入国後間もない学生も積極的に受験させているため、平成30年度の合格率は良くはないが全国平均よりは高い合格率である。</p> <p>卒業生のうち、5名ほどの学生が介護系の就職先に進んだ。法改正を期待し、20名ほど進路が決まっていない学生がいた。</p>
<p>基準4 学修成果</p>	<p>柔道整復師科は、平成29年度の反省から成績不良者に対しては、平成28年度に成果を上げた手法に加え担任主導であった指導方法を学科全体で検討した。</p> <p>国家試験合格率は新卒者65.5%であった。過去最低であった27年度を10%以上も下回り過去最低の合格率であった。新卒者全国平均が86.1%と全国平均よりも下回った。また、昨年の全国平均78.5%から判断すると国家試験の難易度は下がったにもかかわらず、本校の合格率が低下した。</p> <p>鍼灸師科では、早い段階での国家試験に対しての意識付けを行った。一部の低学力者への集中的な指導や面談を実施した。国家試験合格率は新卒者ははり師100%きゅう師100%で両方とも過去最高であった。受験者全国平均は、はり師76.4%、きゅう師78.5%であり全国平均自体大幅に増加した。昨年度の国家試験の難易度が極端に上昇したことに対する反動があったと考察している。</p> <p>東洋療法教員養成学科においては、在校生が無く、卒業生も輩出していない。</p> <p>日本語学科では、卒業生73名を輩出した。卒業生は非漢字圏（ベトナム・ネパール）が殆どで漢字圏（中国）からの留学生もあった。多国籍になったことで、校内や校外での学生間交流で日本語を使用するケースが増えた。卒業時における日本語能力試験N2合格者は12名、N3合格者は26名であった。日本で進学を希望していた57名全員が大学もしくは専門学校へ進学した。日本で就職を希望していた2名も就職した。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>担任制度を開校以来導入しており、学生個人の学習や生活面の相談まで、きめ細かくサポートを行っている。日本語学科については、入学後に担任及び外国人スタッフが適宜生活指導を行っており、日本に来て間もない留学生がトラブルなく過ごせるよう配慮している。</p>

	<p>就職支援については、キャリアサポート室を設置し、専任職員が学生一人一人にあわせた就活指導を行うことができる体制を整えた。平成 30 年度は「就職相談会」を学内で年に 3 回開催しており、参加企業・治療院の選別を事前に行うことや、学生の来場しやすい時間設定をするなど工夫を行った。時期を変えて相談会を行うことにより、早期から学生が卒業後の進路について考えるきっかけを作り、直接企業・治療院と接触することにより、求人票からは見えない情報や雇用条件の確認をする機会を提供できている。結果として、平成 30 年度は医療専門課程卒業生 95 名のうち 82 名 (86.3%) が関係分野へ就職した。</p>
項目	評価
<p>基準 6 教育環境</p>	<p>平成 30 年度は、災害の影響により修繕に迫られる年度となった。</p> <p>6 月に発生した大阪北部地震の影響により、第一校舎及び第二校舎に被害が出た。一部の教室が使用不能になるなど授業にも支障が出たため、早急に修繕を行った。</p> <p>9 月には台風による被害で、第二校舎 3 階シャッターや、第二校舎屋上テントが破損した。これについても早急に修繕を行った。</p> <p>利用頻度の高いトイレに消臭芳香剤を設置し、トイレ環境を改善した。</p>
<p>基準 7 学生の募集 と受入れ</p>	<p>学生募集に関しては、前年度入学予定者が 100 名であり非常に低い数字だったが、平成 30 年度は 111 名を確保することができた。ただし、平成 30 年度目標 120 名には届いておらず、引き続き苦しい状況となった。</p> <p>平成 30 年度の入学者の内訳については、鍼灸師科の入学生の 48% が社会人学生であり、さらに 35% の学生は 30 代以上の学生であった。これまで高校生をメインターゲットにして募集活動を行ってきたが、社会情勢の変化に対応し、「平成」を求めている層の分析を改めてしなおす時期に来ているかと思われる。</p>
<p>基準 8 財 務</p>	<p>Web の情報公開ページで学園全体の財務状況が公開されているが、特に問題なく、財務状況は健全であると思われる。</p> <p>平成 30 年度は人件費の見直し及び調整を行った。</p> <p>これまで行っていなかった校舎補修の積み残しや、高等教育の修学支援新制度に備える必要があり、継続した学生確保に向けた努力が必要である。</p>
<p>基準 9 法令等の遵守</p>	<p>平成 30 年度は、大阪府による定期指導調査が実施されたが、特段大きな指摘事項・問題点はなかった。平成 31 年度に申請する「高等教育の修学支援新制度」に向けた準備も進めている。</p> <p>日本語学科の留学生については、不法滞在やアルバイト時間違反などの問題が生じないように、管理をしている。外国人スタッフを増やし、学生サポート体制を充実させている。</p>
項目	評価
<p>基準 10 社会貢献 ・地域貢献</p>	<p>学園祭を近隣地域の公園で開催し、近隣住民（町内会等の地域団体）との交流の場としている。また、地域団体中心で開催された納涼祭に協力し、地域住民との交流の場としている。</p>

その他 国際交流	ベトナムのホーチミン医科薬科大学での基礎医学研修を平成医療学園グループ校と協同で実施した。鍼灸師科では台湾大学と提携して、鍼灸の研修を実施した。 卒業後のインターンシップ制度として、スペインの研修が実施できるよう検討している。
-------------	--

### Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果は、外部から見る本校の客観的な状況として捉え、今後の学校運営を考える大切な情報であると認識している。よって学校関係者評価結果は、それらの内容に応じた部門で共有され、各部門会議（運営者会議、教務会、教職員会議、事務会議等）により、今後の課題の抽出や対応策の検討に役立てられている。

項目	活用状況
基準3 教育活動	医療課程のカリキュラム改正について、外部治療院への臨床実習について、確保が課題。柔道整復師科では現状は問題がないが、鍼灸師科の実習先確保に苦戦している。 近年の学生は「愛校心」が高くないと感じており、学校としても課題と考えている。実習現場において、ある程度のマナー（挨拶など）だけでもマニュアル化・指導を学校でもらった方が、治療院としても実習を受け入れやすいと考える。 →新カリキュラムでの治療所実習においては、事前学習が項目にあるので、しっかり教育を行いたいと考える。
基準4 学修成果	平成30年度の国家試験合格率の低さに対して、教育指導だけでなく生活指導も含めた教職員の体制を強化し、就学や資格取得に対するモチベーション向上のための施策を早期に実行するように努める。
基準6 教育環境	鍼灸師科は女性も多いので、設備（トイレ、カーペット、机）などを綺麗にしたり、充実するなども必要である。 →利用頻度の高いトイレに消臭芳香剤を設置し、トイレ環境を改善した。
基準7 学生の募集 と受入れ	同窓会組織である貞友会の活動項目に「学校の発展に寄与する」とある。 近年の鍼灸師科の入学生は社会人の比率が高いとの報告があったため、貞友会としてもターゲットを絞ったアプローチができればと考えている。
その他	令和元年4月に設置した応用日本語学科は、定員は充足しなかった。次年度は充足を目指す。

以上